

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
定價　本紙一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓六十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久神一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話大三番振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜錄

●行政改革と人材（上）

松南投登庸

跡隱として喪家の犬の如く、鞠躬如として辨冊堆裡に蟄居し、意氣なく理想なく主義信念なく、眼に希望の光明を絕ち刹那の運命に拋擲せられて胸には不斷の影を宿せるもの是れ所謂下級屬僚君の狀態なり、官尊民卑の遺風當年の夢と消へて、社會進運に伴ふ必然の趨勢は今乎彼等の社會的存在をさへ認識せられざるに至り、「コン」以下てふ一流語は動もすれば世人の甚だしき侮蔑の眼を以て迎へらるゝに至れり、蓋し時に年少氣鋭のものなきにあらずと雖も到底一定の氣圍氣を壓抑するを得ず一生の運命は又如何とも爲す能はざるなり、可憐彼等の荒涼寂寞なる境涯や、吾人茲に至りて實に一掬同情の涙を禁ずる能はざるなり

世に行政改革の聲を聞く久し、而も常に高遠の理想にのみ驅られて廟堂の外に出でず、遂に其眞核を搔爬し得ざるは何ぞや、凡そ國家百般の行政は悉く所謂渠等屬吏の手腕より發現せざるはなく、渠等の一擧手一投足こそ眞に一般國民の利害得失に係り、延ひて一國政務の消長に至大の關係を及ぼせるは問はずして明らかなり、されば上長の命を承けて庶務に從事すてふ官制上の抽象名詞を以て彼等を單純なる有機的機能に過ぎざる如く思惟するものありとせば、开は今日行政事務の實情を知悉せざるものにして恐らくは皮相の見解たるを免る能はざるべし、又假令上に聰明の指揮者あり、政治に拔群の士ありて如何に善謀良猷を施すあらんも一に實務執行の渠等にして之に副ふことなくんば、いかでか其成果を收むるを得べき、斯ては可惜一代の鴻圖も畢竟一の標識たるに終らんのみ、且夫れ現下の複雜多端なる行政事務に於て下級實務の運轉は、之等上長の敢て顧みざるは勿論、經驗の智識なき靑年事務官僚の窺知し得ざる所にして、所謂因襲的先例と格式とに據り全然屬吏の自畫自贊に待たざるべからざるは蓋し不已得の狀勢ならんか、嗚呼因襲、格式是れ何等の不公明、非沒理的語ぞや、勢に吾人の講究を要すべき好箇の題目たり、而も是れ目下の行政に於ける大原動力にして、一二抽象機關の改廢に依り到底如何とも爲す能はざる所なり

●粉吹雪

▲△生

△『知つたが無理か起臥は心つくしの端は愚か奥のとろくのた客にも馴れ親しんだ身の一登』と宮城野が辨疏にも嘴して、範圍廣き方々の人々が寄り合場所なる殖民地に、もの憂き日を送る身は自然と異やうなる諸地方の男子が方言も滅多には其の意味を聞き損せざらん程の耳の鍛磨は經るにも至らんか扨て當惑なは客の側なり、標準語には遙に遠き天草の藥紫潟、然うバイバッテン語に人となりたるが多勢を占むる朝鮮の遊里に客となりたる際、何條か彼等の喃々に容易く應答の出來得べきや、殊に男女共に殖民地に馴れ親むこと淺き日に於て、一層其の可笑き節多かるべきは免れざるところ、夫れ殖民地の遊里をして風情あらしめんには、宜しく、其の廓專門の所謂廓言葉なる標準詞を定むべしと、天下の一大事と言はぬ許り滔々と鹿爪らしき論議だての痴漢が言にて一面の道理あれば然らば高襟髮に馬爪の三枚櫛白粉塗りの太夫達が然うざますも妙ならず、妾や元來筑紫の產もぎごちなしと評定の最中を、ナアニ双方とも喇叭節か聞がい、節で應答するさと罵り終りたる人の詭辯にも味ふべき意のなくてやは。

△遊びは風情なる面影の今日此頃の色里に衰ひたるを嘆たんは、內地に於て既に時世相らぬ譏うけんを、荒みにすさみし殖民地に、更に之れを繰り返さんは迂愚の沙汰なれや、兎角は喇叭節の解し易く、一本調子なるが當世なり新漬にお茶づけよりも、牛肉のブッかけ飯に走るが寧ろ食通と見做さるゝ時世なり。

△花山楼の緣め上げには厘毛の端くれも計算違ひに似氣なく、磯の鮑を十三九ツ廿一寄せてさ、如何に說き聞かされても廿七とは決して言はず、其の揶四十三貝とも唄はずして、矢張り結果は四十苦界の片思ひと聲張り上げて、洒々と人並々の線香代とやら頂戴すな御の藝妓舞妓も、這箇牛飯趣味、單調趣味ある在るに依りて、無事平穩に其の日を過し得るなり。

△一圓の金は二圓三圓に、三圓は五圓十圓に使はざるに依りて、遊びの掟知らぬ無骨漢と蔑視るゝ浮世なり、其の癖寒からぬほどに見てをけ峯の雪とやらの、雲右衞門が武士道鼓吹倉橋傳助が浪花節の一條は當代粹士達の缺くべからざる嗜みとして爭ふて口にし給ふ所なるに。

外事一束

▲外●傑●　築造中の伊國兵を土耳其兵ホムスに攻擊し三時間に亘る激戰を爲す

▲新●設●　の英國海軍司令部海軍社會より衷心の歡迎を受け海軍同盟亦贊成す

▲ル●氏●　沈默を守れど共和黨の大統領候補者たるは公然の秘密なりと云者在

▲米●國●　大西洋艦隊バーミング諸島に暴風に會ひヤリアント號遂に沈沒せり

▲從●來●　大統領候補者さし三度敗北せる民主黨首領ブ氏第三政黨創立を企劃

▲佛●國●　諸新聞這回上院議員に撰出されしジャシオ氏次回佛大領たらんと云

▲伊●國●　藏相財政狀態良好にして戰爭繼續に關する軍資豐富と下院に言明す

▲土●國●　伊が昨年十二月發表したるトリポリ併合の宣言は平和解決に關する

▲條●約●　を不可能ならしむるとの理由を以て伊太利との休戰交涉拒絕に決す

梁川庄八（やながはしやうはち）

小金井蘆洲演

第七十六回

理の當然に藤本下總守返す言葉もなく『ウム』と差支へましたが、軈て下『さて〈〜引かれ者の小唄と云ふ比喩の如く此場に臨んで役人に對し惡口、又は雜言に及ぶ段不屆至極の曲者なり早速牢問拷問申付くるぞ』と何の容赦もあらばこそ、其儘白洲を引立て牢內に差送り、拷問場に於て才助を牢問に掛けました、此方の勇吉等は追て呼出すに依り今日は退れと云ふので、其場に於て役人に申上げたい事も有つたが何事も公儀の御威勢に怖れて口を噤み、其儘御番所を退つて若王子の家に戻りましたけれども、何分にも才助の身の上が如何成行くやらんと案じられて夫れ〈〜手を廻して、牢內の模樣を探れば日々牢間拷問に掛り、將に責殺されんとする有樣であると聞いて　勇『何うかして助けたいものだ、我親を殺した者は吃度外にあるに違ひない、世間の者は彼の齋藥屋だと思つて居るか知らぬが、此勇吉は決して然うは思はない、誠に氣の毒な譯だ』と飽まで信じて居るものでございますから、度々奉行の役所へ參つて助命の儀を歎願致しましたが更に御採用なく、役『𢍁呆者め上役人が其方の敵を御處刑下さるに何ぞ心得て歎願に及ぶのだ、如何に愚人とは申しながら親の敵を何ぞ心得て居る以來乾度無用なるぞ』と叱り飛されて如何に歎願しても更に牢間拷問の寛みと云ふものは無いやうでございまする、此時才助も我等は實は伊達政宗の臣、齋藤外記と云へば即時に繩は解け靑天白日の身になるけれ共、四方に使して主命を辱めざるを誠の武士と云ふ、不淨役人と俗に云ふ町奉行の白洲で主君の御名前を出せぬから、亂暴な役人だと思つて默つて了つた、なぜ藤本下總守は斯樣な調べをすると云ふに何んでも才助を罪人に落して了つて所持の物品金子を缺處にして私慾を滿たそうと云怪しからん望を起したのです、そこで勇吉は考付きました　勇『こりや一つ勝沼宿の旅人宿太田屋へ行て聞合して亭主の言葉と才助殿の言葉と相違なければ、太田屋の主人から願つて貰ふことに爲やう、夫とも太田屋の主人が覺へがないと云へば假しや俺の親を殺さんでも虛言を申立てた所を見れば何か後闇いことがあるかも知れぬ論より證據太田屋の主人に問合せやう』と云ふので甲府より江戸の方へ五里ほど勝沼の宿へ參りました此界隈には宿も澤山ございまするがまあ帝子の峠を越せば勝沼か石和とか云ふ程繁昌な處でございます其太田屋の門口へ參つて　勇『御免下さい　主『お入來なさい　勇『御主人は御在宅ですか　主『エー私が太田屋吉左衞門でございますが貴方は何方からお越になりました　勇『私は若王子の織元勇吉と申しまする者　主『はゝア若王子の織元さんでございますかさあ〈〜此方へ』と云て急にお世辭を云ひ座敷に案內して、それお茶よ莨盆よと手厚く歎待し　主『何か御用でございますか、　勇『少々折入てお尋ね申したいことがございます　主『エー　勇『當年四月末江戸の金吹町の丸屋傳左衞門と云ふ仁が奧州仙臺の齋藥屋を連れて一泊したことがございますか　主『エー手前の家では其丸屋傳左衞門と云ふお方がもう大切なお客でございます、殊に身延信心のお方でございまして年に一度や二度は必ず御自身で御參詣なさりますのみか手代衆が代參さして月參を爲されます其上下共に御主人は勿論手代番頭お連の衆まで必ず手前方へお泊り下さります、此店から座敷の建築とも大方は金吹町の丸屋さんが爲て下いました位のもので、年頭暑寒の禮狀は一度も缺いたことがございませぬ、へゝ丁度四月二十六日に途中で御災難に遇つたと仰しやいまして御泊りになりました其節奥州仙臺の齋藥屋の才助さんと云ふお方を同道して參りました　勇『其才助と云ふ仁が小佛峠で丸屋傳左衞門一家の者の賊難に遇ふて難儀致して居る所を助けたと云ふのは事實でございますか　主『エーもう事實どころではございませぬ賊は十人餘り兼て待伏せして居たものと見へ、突然現はれ出で刄物で嚇して殘らず繩を掛け身延の御山へ御奉納の金錢品物を一切奪取らうと致しました、其時江戸の方から上つて來た方が賊と見て取たので拔擊に一人の賊を斬倒し、亦左右から斬て掛つた二人の賊に重傷を負はせ、其他二三人に手傷を負はせたに依て賊は雲を霞と其場を逃失せました、マア其仁のお蔭で丸屋さんは賊難を免れたのみならず奉納物や所持の金も何一つ紛失せずに濟みました。



東京電報

▲一月上旬輸出入額 本月上旬に於ける海外輸出入額左の如し

△輸出	七、〇九七、〇〇〇
△輸入	一二、一〇一、〇〇〇
△輸入超過	四、〇〇四、〇〇〇
△輸出金銀	三三四、六六七
△輸入金銀	二四一、二五〇
△出超	九三、四一七

▲英帝印度御發 英國皇帝は十一日孟買御發御歸國の途に上らせられたり

▲紡績操業短縮廢止 大阪紡績聯合會にては操業短縮の制限を撤廢せり

▲天主教主死去 在東京天主教司教ボンヌ僧正は死去せり

▲米國の在清兵增加 米國は更に馬尼剌駐屯の兵を清國に增派せんとし其準備に着手す

▲政府と行政整理 現政府の行政整理は府縣廢合其他根本的に改革すべき意嚮なりと

▲御題詠進歌數 新年御題の詠進歌數三萬に達せりといふ

▲神奈川縣知事 元臺灣民政長官たりし大島久滿治氏は神奈川縣知事に任ぜられたり

▲外波少將南清出張 外波海軍少將は十一日南清に向け出張す

▲佛國の新外相 佛國外務大臣セルブル氏辭職し其後任としてデルカツセ氏任ぜられデルミチ氏は海軍大臣に任ぜられたりと

▲清國關稅監理問題 清國關稅に關係ある各債權國は愈々清國關稅監理實行を公使團に提出せり公使團は之を外務省に交渉して其實行を開始せり而して其方法は關稅經濟を獨立にし關稅收入より一切の經費を扣除し其內約二百萬兩を各地方關係大銀行に預くると云ふにあり

▲信越方面大雪 信越方面大降雪電信電話不通となれり

▲漢口は中立地 各國領事の提議により漢陽漢口の兩地は中立地となれり

▲露國蒙古經營 露國の蒙古獨立通牒は九日北京政府より列國に發表したるが事体甚だ重大となり

▲清國出兵準備 我政府にては今後必要に應じ更に第三次第四次の清國派兵を實行すべく大体の方針は過般の陸軍及外務當局者の會議に於て既に決定し陸軍省にては全國各師團に何時にても出發し得べき一切の準備を爲さしめをれり

▲第三次出兵期 別報第三次の清國出兵期は今日の處未定なるも革命軍北隊が愈々秦皇島を衝きて上陸するか或は北京天津方面に動亂の起り秋ならんと觀測せらる

北京特電

▲袁媾和絶望を宣言す 十二日 北京政府は特別閣議を開き袁世凱は革命軍北伐の意止まず爲に媾和談判は到底破裂を免れずと宣告せり

▲蒙塵の準備成る 十二日 皇族の秘密會議を開き皇帝退位蒙塵の準備全く成り近々發表さるべしと

▲山西革軍北進 山西の革軍は規約を破り進軍なし來れるより官軍は函谷關に退き更に許州迄退却せしも革軍は尚進軍を止めず其の勢ひ甚だ猖なり

上海特電

▲守備の革軍 目下武昌附近は革命軍を三分して嚴守し長江沿岸革軍の配置を見るに第一軍は江西一旅團安徽兵二千より成り長江左岸にあり黃陂陽邏驛間の第二軍は湖北旅團江西第五旅團守備に當り長江右岸は成一旅團より成る一隊漢口附近に

▲革軍士氣旺盛 革命軍中には媾和に望を屬せるものなく何れも北伐決行を以て時局解決を速からしむるものなりと唱へをれり

雜報

●總督の東上期 寺內總督には今期議會閉會迄は東上せず來る三月頃東上の筈なりと傳へらる

●來年度の治道費 朝鮮の道路修築工事は朝鮮政府時代に於て年々繼續事業として多額の經費を投じ着々改善の實を擧げ居りしが本年度より五ヶ年繼續として一千萬圓を事業公債より支辨し年々二百萬圓の年度割を以て進行しつゝ居りしも本年度は事業の進行半額の行程に過ぎざるを以て明年度豫算は年度割二百萬圓中五十萬圓だけ四十六年度に繰延する事になりたり

●鮮米の取引所代用米 從來朝鮮米の改良に就ては當局者の大に苦心したる處なるが近年漸く優良となり內地米と略ぼ異ならざる程度に進步したるを以て曩に朝鮮穀商聯合會の決議を以て代用米として採用されんことを農商務當局に交渉したるも時機尚早の理由にて不採擇となりしまゝ今日迄未解決の問題となり居りしが今回鮮米移出稅を廢止することに決定したるにより大阪堂島取引所に於て鮮米を濟境期に際してのみ代用米として採用するに決し同時に神戶下關其他二三の取引所に於ても別建として代用米に採用す

●京城水道改良 京城水道は昨年不時に斷水する等の事ありて一般の迷惑少からず當局者に於ても當時應急修理をなせしも完全に改良工事をなさんとするには二十餘萬圓を要する事とて豫算の關係上今年度に着手し能はざりしも明年度に於て愈々改良擴張費として十七萬七千八百三十餘圓を計上しあれば右費額によりて昨年の破損個所等稍危險と感ぜらるゝ部分は復線水管となす等夫れ〳〵改良及擴張をなすべしと云ふ

●漁業令實施期 曩に發布したる朝鮮漁業令は從來の漁業稅法改正と共に實施すべく未定なりしが愈々本年四月一日より實施する事に內定せりと

●麻栽培と全北 全羅北道全州郡苗場最近調査にかゝる同道麻類栽培狀況は大麻作付段別三百十町步苧麻二百四十町步にして其の收穫量は大麻七萬四百貫匁苧麻一萬五千六百貫匁即ち一段步の平均收穫量大麻は廿二貫七百匁苧麻は六貫五百匁にして苧麻大麻共に極めて地味に好適なるを示し又た其の價額は大麻一貫目の單價七十七錢總價額五萬四千二百圓苧麻は一貫目の單價三圓七十七錢總價額五萬八千八百圓に上ると云ふ

●關門と朝鮮貿易 下 關門司兩港に於ける本月上旬の朝鮮貿易左の如し

移出品額	八八、五五九	七九、七七三
移入品額	四〇、四三三	四〇、六八三
移出超過	四八、一二六	三五、〇九〇
△移出重要品		
精糖	一〇、六〇五	三、〇三〇
綿糸	三三、一四二	四、七四〇
綿織布	一一、六六二	六、六八三
△移入重要品		
大豆	一六、〇八三	四、七六九
牛皮	一五三	
石墨	一、〇八四	一九五
石炭	…	二七、三〇〇
干鰯	一、〇八〇	一五五

●東亞煙草販賣狀況 東亞煙草株式會社が鮮滿各地に於ける最近半ヶ年間の各種煙草販賣狀況を聞くに朝鮮各地に於ては兩三年來打ち續きたる經濟界の不振と七月以來霖雨打續き地方との交通杜絶せるとに依り自然其の實行に大打擊を蒙り又た一般の嗜好は漸く廉價品に向ふ傾きを生ずるに至りしかば同會社にては口付煙草に於ては兜、兩切煙草に於てはハチピー、ウェルスの如き廉價品を極力製造販賣して此種の需要に應じたる爲め其の賣上高を增加し之れを前年同期の賣上高に比較するに紙卷煙草は一億二千三百二十一萬五千九百本餘刻煙草は三萬三千七百九十二匁即ち紙卷煙草に於て四割六分刻煙草に於て二割七分を增加するに至りたり又た滿洲各地に於てはペスト發生以來若くは減少を來し且つ八九兩月に渉れる豪雨は終に地方の水害となり交通全く杜絶し一般の商況不振に陷りては革命の動亂起り軍隊の出動其の他の爲め人心を動搖せしむる等多少賣行に不振を來せしものあれど而も全体を通じて前年同期に比し成績可良に紙卷煙草に於ては八千〇六十二萬一千九百八十本餘刻煙草に於て五萬一千三百四十三匁を增加するに至れり之れを要するに同會社最近半ヶ年間の滿鮮各地販賣狀況は前年同期に比し紙卷煙草二億〇三百八十三萬九千九百三十五本刻煙草三百四十二萬四千四百九十匁を增加し成績佳良なりと

●政務總監東上期 山縣政務總監には來る十五日より開會の內務部長會議を終り二月始め當地發東上すべしと

●仁川重要品 昨十二月中出入 十二月中仁川港出入重要品貿易左の如し(金額圓位)

▽輸出及移入品の部△

米	六二、二七二	豆類	一九三、四五五
人蔘	三二七	石炭	一〇
牛皮	八〇四九	肥料	六〇七九
其他諸品	三、一二九		
合計	二九〇、三〇七		

▽輸入及移入品の部△

小麥粉	一五、四二五	食鹽	一四、九四七
果實核子	九、二六三	鹹魚	一四、三二一
罐詰食物	四、四九五	砂糖	一五、二二九
清酒	二〇、三三三	麥酒	三五〇
雜酒類	四、四二〇	石油	二九、七〇〇
蠟燭	一、四一一	繰綿打綿	六、四〇四
綿織糸	二八、六九五	生金巾	一七四、〇八〇
晒金巾	三七、〇八五	天竺布	一、六九〇
綿繻子	三三、九三三	日本木綿	六、二三八
麻布	五〇二	毛織物	四、二八六
絹布	二三、三八九	交織物	一五、〇一一
絹服物	五、五五九	紙類	二九、三一一
諸文具	六、七七八	書籍類	一、八五五
熟鐵	三二、五六〇	軌條附屬	一九、一六四
鐵筒管	一〇、三五二	鐵釘	四、二五一
鐵鍋釜	一三、三一七	諸機械類	八九、三九九
煙草	五一、一二三	石炭	一〇六、一七九
陶磁器	七、七一八	木材板	八七、三〇〇
吸鐵爐	二〇、八四〇七	セメント石灰	一、七〇六
家具	二、四二九	燐寸	二三、三二九
木製品	二、九一四	爆發物	九、五一九
洋傘	一四	小包郵便物	三九、九四一
其他諸品	三六三、〇八六		
合計	一、三九五、一七八		

●三井物產成績 四十四年度下半期に於ける三井物產會社當地出張所の概況を聞くに同期に於ては米穀大豆の騰貴甚しく恩賜公債の賣却されたるもの數百萬圓以上に上ると共に鮮人の金融潤沢を加へ且つ內地資本家にして朝鮮各地の地面買收に從事したるもの多く湖南京元兩鐵道工事費の支給等に依り鮮人の購買力著るしき增加を來すに至り諸雜貨類の鮮人間に於ける賣行は非常なるものなりしも綿布は例年の如く下半期は其の賣行き甚だ緩漫なりしが石炭枕木セメント器械金物類小麥燐寸砂糖等の諸雜品等の賣行成績は極めて良好なりしと

各銀行會社營業成績(其八)
明治四十四年下半期

▽朝鮮銀行▽ …木村朝鮮銀行理事談… 四十四年下半期末に於ける當行本店の預金總額は二百六十四萬五百二十圓一錢にして此內譯は公金預金五十六萬六千五百五十一圓九十錢定期預金二十九萬三千七百七十八圓四十三錢當座預金四十一萬七百五十八圓五十九錢特別當座預金三十五萬八千三百六十二圓七十五錢其他の諸預り金百一萬千六十八圓三十四錢なり又貸出金總額は四百八十八萬四千百三十九圓二十五錢にして此內譯は定期貸二百二十九萬五千圓當座貸越二十六萬五千六百七十六圓三十二錢割引手形二百三十二萬三千四百六十二圓九十三錢なり今之を前年同期末に比較すれば當座預金を除くの外總て相應の增加を見即ち當座預金に於て四割六分を減じたる外公金預金二割定期預金六割五分特別當座預金六割其他の諸預り金七割預金總額に於て一割八分を增し又貸出に於ては前年同期末の貸出高比較的少額なりし爲め其比較增加率頗る高率を示し即ち定期貸十一割割引手形三十八割を增し當座貸越は八十五倍となり貸出總額に於ては二十一割の增加なり而して右當座貸越增加し當座預金の減少を見たるは同期末に於ける一般金融の繁忙と且つ支店銀行側に於て內地本支店へ回金を努めたる等旁々各銀行者の預金殘高著しく減少したる爲めなり尚又銀行券の發行高は二千五百萬六千五百四十圓にして之亦前年同期に比し四百八十四萬二千六百四十圓即ち約二割四分の增加を示せり終りに同半期間當行純益金總額は十三萬五千百七十十圓九十三錢にして之は前半期利益金に比し約八割三分の增加を示すに至れり

●衛生講習開會 警務總監部衛生課にては警官及憲兵に對し衛生上の智識を涵養せしむるを必要として今回各主要地に於て衛生講習會を開催する事となりたるが期間は二週間にて京畿道警務部にては來る十五日より開會の筈會員は各警察署憲兵分隊及警務分署憲兵分遣所等より一名若くは二三名の巡査憲兵を選拔する由にて三十名乃至三十五六名なりと

●工傳卒業者と就職 四十二年三月より四十三年十二月迄の間に於ける總督府立工業傳習所卒業者の就職狀況を聞くに自營者及會社商店又は製造工場に入りたるもの比較的多數なるは大に喜ぶべき現象といふ可く其就職別は卒業者染織科三十四人陶器科三十人金工科三十二人木工科二十六人應用化學科二十五人土木科三十八人中就職別は官廳に入十六人恩賜金による授產事業工業傳習教師十六人自營業者三十五人會社又は製造場に十五人學校教員十七人東京に留學者二人工業傳習所專攻科在學者七人死亡四人就職未詳調査中の者八人なりといふ

●咸南の清貨減少 咸鏡南道甲山地方に於ける清貨の流通狀況は客年八月以來漸々減少の傾向を示し同年九月に至り夥しく其の數を減じたり今其の主要なる原因を聞くに鮮商人の人蔘購入の減少清國商人の動亂發生以來歸國する者俄然增加したると清錢交換率の變更等重なる原因なりと

●關釜連絡船の航線 關釜連絡船梅ヶ香丸は修繕の爲休航中の處去十二日より復舊就航し壹岐丸は機罐掃除のため十八日下關着より八日間休航すべきに付船繰に變更を生じ對馬丸は十八日午前九時半釜山發後は每偶數日釜山を發し櫻丸は十八日午後十時釜山發以下順次偶數日釜山を發し梅ヶ香丸は十九日午前七時半入港後は順次奇數日釜山發に薩摩丸は十七日午前九時半釜山發以下每奇數日發船すべしと

●京畿道の救恤恩賞金 京畿道に於ける昨年中孝子節婦への恩賞金は二百八十七名に對し二千七百八十圓にして鰥寡孤獨の救恤金は六千二百三十九名に對し二萬一千七百十七圓なりと

●鴨江夜間進行 鐵橋 從來鴨綠江鐵橋の人道は日出より日沒迄の間のみ進行を許し居りしが斯くては交通上の不便少からざるより其筋に於ては取締の警察官を增加し夜間をも通行せしむべく目下準備中なれば不日實行の運びに至るべし

●仁川商議の役員會 仁川商業會議所にては十三日午後一時より臨時役員會を開催し商業部工業部理財部運輸交通部等の各部長の撰擧を行ひたり

●兒玉伯の東上期 兒玉伯爵は貴族院に列席すべく來る廿三日頃東上の途に就くべしと云ふ

●上泉司令官の入京 鎭海防備隊司令官上泉海軍少將は十二日入京天眞樓に投宿せり

●秋山參事官渡歐期 滯京中なる秋山參事官には二月始め一度歸任し來る三月二十二日橫濱發本年五月開會の萬國赤十字會議に列席の爲渡歐すべしと

●酒造組合員度支部訪問 度支部釀造試驗場は鮮人向酒類を改良するを以て本來の目的となすに拘らず昨年來清酒を釀造して民間に賣却せるを以て釀造組合員一同は十三日午前度支部に鈴木司稅局長を訪問して意見を陳述せりと

●聯合新年宴會開催 當地商業會議所議員及特別議員並に商業調查會員の聯合新年宴會を來る十六日開催せんとて目下準備中なりと

●朴侯爵の新年宴會 侯爵朴泳孝氏は十三日午後四時より李完用伯其他の知己を自邸に招きて新年宴を開き日人側よりは明石少將檜垣道長官等も出席せりといふ

●高等法院の新年宴會 高等法院にては十三日午後一時より廳舍內に於て吏員一同の新年會を催したりといふ

●中村檢事長の新年宴 中村控訴院檢事長は十四日午後五時半より關係諸官署の高等官を花月に招待新年宴會開く

●山林課員の新年宴會 農商工部山林課員一同は明十四日午後五時より京城ホテルに於て新年懇話會を開く由なり

●早大商科出身者の宴會 早稻田大學商科卒業の當地在留者は十四日午後五時より旭町靜陽軒にて新年宴會を催す

●前間氏長男死去 元總督府通譯官前間恭作氏長男於莵吉氏は病氣中の處去る九日午前四時死去したり因に前間氏の現住所は東京市麴町區三番町二番なり

●李容九の重患 目下須磨にて療養中の同人は肺患重症に陷り回復覺束なしとの事なり

●辛亥吟社の詩稿募集 男爵李載克氏及び安宅重、鄭雲復、李海朝、鮮干日李喆柱等諸氏發起にて本年の干支に因み辛亥吟社を創立し風流韻事を解する同好の士を網羅し大に斯道を鼓吹せん目的にて子爵李埼鎔氏を會長とし汎く會員を募集すといふ因に會員の寄稿は每月詩集として之を頒ち會費は十五錢とし寄稿は五七絶五七律古詩雜詞等隨意なりと同社事務所は京城東部黃橋三十七統二戶なり

●統計摘要配付見合せ 貴衆兩院へ配付すべき豫定なりし朝鮮統計摘要は兒玉伯東上時機を見て配布することゝし一時送配見合せとなせり

●水原の貯金組合 道參事金顧植氏等の發起に係る水原貯蓄組合は遊惰の弊風を矯め業務に勤勉し冗費を節約し金財を貯蓄し產業の資金又は罹災救濟の費に充つるを目的とし會員は副業として繩叺莚笠等を製造し製品は每月一回取纏め賣却し代金を郵便局に貯金する筈なりと

●黃海道禮成江の結氷 黃海道禮成江は金川郡鴻浦附近より本道碧瀾渡附近に至る約九里間は總て結氷し車馬の往來安全となれり

公人私人

▲原田金之祐(東京廻漕業組合會社重役)十二日投宿巴城館
▲脇本彬(江原道內務部長) 同浦尾
▲上泉德彌(海軍少將) 天眞樓

▲京城手形交換高

	金額	枚數
一月十三日	一〇〇、二〇九、八〇〇	三七四

▲治外法權▼

議會前のセイカ夫れとも外に何か理由でもあるのか、寺內總督此頃の愛嬌振りかたは去年の今頃に比して雲泥萬里の相違だ▲新聞記者を御馳走して施政の方針を打明ける、實業家及び移住民の代表者等を招き、御馳走をした上に懇談する、ソレは、ソレは、君子の豹變も、斯くやと思はせる許りだ▲總督の愛嬌振り時や大に良し、併しソレが眞に衷心から出て來て居るのなら大に嘉みすべしだが、何かの政略にヤルのなら餘りホムべきではない▲ソコで東京日々に掲載された三浦觀樹將軍の談に曰く、桂と寺內の頭と來たら一寸類が少ないが、政治の遣口を見ても桂の圓くつて惡滑な、寺內の忌にピンシャン角張つて人好のしない處は頭の形其儘だから妙ぢやないかと▲日々子右に附記して曰く、其寺內も近頃少し頭の角が取れたと見へ舊臘朝鮮に歸任する前、大阪の實業家を料理屋に招んで機嫌を取る、今度は蛇蝎よりも嫌ひな新聞記者を總督官邸に招んで大に言論を歡迎するなどと今までにない味なことを云つて居る▲亦た曰く、なぜコンナ藝當を遣ることになつたかと云ふと、世間から手酷い攻擊も喰ひ、段々忠告するものもあつたので、多少反省の氣味もあるが、一つには此次の內閣は的切り自分の番だと見越して今から人氣を取つて置く了簡になつたものらしい、併し此男の石頭は天性だから迚も圓なる望はない▲日々子の評言是乎非乎記者之れを知らず而かも總督たるもの該評言を他山の石と見做し、日に三省して他日の大成を期することこそ可なれ▲兎にも角にも一時一進會長で飛ぶ鳥を落した李容九が肺患で昨今重態に陷つたとは氣の毒な事だ、彼れや成金となつて以來、誰に數へられたものか酒はシャンピンに限ると云つて、朝から寢るまで飲みつゞけ、其でとう〳〵シャンピンに生命を取らるゝことになつた。

●鴨綠江の橋と氷（八）　天眞生

日本趣味を帯びたる清人車夫が淺黃地に白く二引の暖簾張り硝子戸嵌めし和洋折衷の玄關に立ちて『御案内』と叫びつゝ硝子戸引き開けて『お入りなさい』と聲掛くるに、[illegible] 十七八の娘、[illegible] 色美しき娘なり、導かれて其の奥まりの室に入る、應接室と覺しき [illegible]

ストーブに覺束無き火の光り [illegible]

清國北京の羊肉胡同に住する骨董商 [illegible]

何事も電線を傳ふます [illegible] 大きく響きますもので [illegible]

憲兵上等兵王文華 [illegible] 清國官革兩軍の孰れに黨するや [illegible] 目下考慮中 [illegible]

塗の板一枚を突き附けて『[illegible]』心を定めて熟視すれば宿料の等級別なり、櫻、松、竹、梅とあり『勝手にしろ』と言ひ放つ『夫れでは困ります』と追ひ縋る、

正直な旅館氣質『チャ此 [illegible] るさんコックリを [illegible] も王氏も皆な喚問を [illegible] 導かる、僕と稲田 [illegible] は滊車中にて濟した [illegible] 椅子に凭れて膳部 [illegible]、鯛の潮煮、海鼠 [illegible] の香物、稲田氏は [illegible] 豌豆に蒲鉾 [illegible] 飲む、一時過ぐる三 [illegible]

安東八景を見るを [illegible] 洋折衷の一室に湯 [illegible] の夢淪かなりき

●中學生諭示退校問題

▽果して妥當なる所分か

[illegible] 總督府中學校を訪ふて去月 [illegible] 當日一名の論 [illegible] 學校側の言分を [illegible] の兩日突然父兄 [illegible] 十三日も同様午後 [illegible] れた十日の來會者 [illegible] が生徒監督上の父 [illegible] 徒の成績品を縱覽 [illegible] は何一ッの質問も [illegible] 一日の同會に於て [illegible] 一室に會して種 [illegible] 其の大意は總督府 [illegible] は編上げ若しくは [illegible] 令は貴校長の意よ [illegible] や又は學生監の意 [illegible] りや是れ裕福なる [illegible] なからんも貧困の [illegible] ゝある父兄に取つ [illegible] 迷惑なり這回諭示退 [illegible] 名の生徒は爾かく成 [illegible] 良なる無頼の徒な [illegible] を以て彼等を啓發 [illegible] の色なき者なりや [illegible] に控われたる今日斯 [illegible] は生徒の人格を尊重 [illegible] も侮辱したる行爲 [illegible] ては慥々通信簿其 [illegible] 父兄に對して注意 [illegible] 長にては斯かること [illegible] に既往の學期に於 [illegible] 到底學年試驗の通 [illegible] るも父兄と熟談の [illegible] すべきものならずや [illegible] を出だしたるは家 [illegible] きを得ざるに因す [illegible] 徒の成績品行には常に注意を怠らず適宜の處置を採るは當然の義務にして這回の擧の如き決して貴校の名譽には非ざるべし云々と之れに對する同本校長の返答は一般父兄の知らんと欲するところなるべし

●子歳藝妓の氣焰

會員　井門鶴吉、清水席權助、玉家伊達子、開進亭榮、浪華亭金五郎、とん子

開進亭の榮（下）

岐阜市に○○町と云ふ所はありませんよ併し夫れ丈けは○○町にして置いて下さいね、十九の四月旦那に別れて日本橋の大和家で錦枝と云ふ名で稼いて居る間御承知の明治町に店があつた株式仲買西村支店の支配人であつた山本權助と夫婦になりまして四十三年の十一月京城に來ましたが事情あつて權助とは手を切りまして壽町の有明樓さんから福勇と名乘つて御贔負になつて居ました、處が權助は例の菊家の茂松さんに熱くなつて、妬けたらうつて、聊かねホヽ、、、、遂に落籍して夫婦氣取りと云ふ一段の結局がお定まりの大失敗、ウーイと溜飲が下つたらうつて、豈夫貴郎、夫れ程薄情ではありませんよ、デスかなつて夫は貴郎人情ですもの、賴母しいと仰云るの、一苦勞しましようか、併し貴郎ア女房持ちだから若勞するセーが無いわよホヽヽヽホ、權助は大連に行き茂松さんは大阪で藝妓をして居る相ですよ、私は昨年九月開進亭へ住替へました勿論自前で借金が無い丈氣が輕うムいますよ、ケツの方もだらうは憚りさま、座う御座いましようか自分乍ら判り兼ねて居るので御座います、ラ〜ザツとした所が右の通りです、鼠と云へば狐が大好きますつてね、私か十五か六の折でした或お客樣のお話に承りましたよ、エ、横濱です、其方が仰云るには俺の朋達が先日鼠の蒲燒を俯へて田舍の山ん中へ持つて行つて其匂を嗅ぎ傳へて寄り集つた狐に何處からでも貨幣を五千圓持つて來れば此を皆遣ると云つたら鼠の蒲燒が欲しい一心で五千圓と云ふもの持つて來ましたつてよ、アラ眞實ですよ、貴郎も一つお行んなさいよ、好い稼業だワ（終）

●浪花舘總見雜觀

▽初から無理な注文

浪花舘に於て興行中の落語家圓若一行を京城龍山の藝妓連が十二日の夜總見するとの評判が立つた、浪花舘からも斯くと各新聞社に通知した、而して其主催者はお靜と云ふ嚴格な家庭には出入をせぬ髮結だと云ふことも傳へられた一ッ總見物をすると云ふ美しいのを見物しようと四人連れ三圓二十錢と云ふ素晴らしく不廉い木戸錢を拂つて二階へ通る、何とか云ふ前座が盆を廻して居る、世の中は面白いものだ盆を廻して飯になるとは、藝妓の總見場と云ふ階下の右の高場を見る元翡翠樓で花蝶と云つて昨年秋度支部事務官藤原正文氏に落籍されたが近頃に至り京城券で出て居る女が江戸ッ兒の曾我勉君と親子の如な夫婦の樣に肩を列べて居る他には白石老辯護士の傍に藝妓の如な女が二名居る斗り、髮結のお靜は丸髷姿の婦人五六名、男十數人の中に居る、春樂と云ふのが噺を初めた所へ新江戸家の萬龍がニコ〜と入場したが間も無くお座敷との電話で退場した、暫らくあつて清水席の松吉と笑太郎が相變らず笑顔で入場する此と相前後して開進亭の小勇が仲居を伴れて二階の一等席へ入場したが眼早く一行を見附けて如才ない挨拶をする、飛入だと云つて駒彌といふ美形が筑前琵琶で那須の與市を語つた、此女は掬翠樓から琵琶藝妓として現はれる筈で目下交渉中だと廣告した、琵琶の方は兎に角節に至つては成つて居ない、語らないで唄つてるのだ、端唄の如だ、新江戸家の二三龍は一龍と伴れ立つて入場した二三龍は若遊三の內緣の妻だ相だ、軈て無い緣のツヤ、らなくなるのだらう、呂鶴と云ふ男の人相は恐ろしく柳丈は立派に若遊三の氣障さ加減はだ、七人廻しの若旦那、酢豆腐は乙でげす、圓若流石に落着あり噺も音曲も手に入つたもの巧いものなり、夜に入つての藝妓の總見、出來ると思つたが甘ねぞ〜、七分の入りなり（ゑ生）

●白晝の强盜沙汰

▽實は無實の申告

十三日午前十時頃南大門通り一丁目居住清國人雜貨商孫盛寶より只今金六百圓を朝鮮商業銀行に積立に行く途中黃金町通り南部廣洞居住清國人廣和順方前街路に於て日本人强盜二名に出會し滯に突飛され所持金六百圓を强奪せられし旨南部警察署に訴へ出たるより同署にては白晝の强盜沙汰とは一大事と刑事五名を督勵して犯人捜査に從事せしめ而して被害者たる孫盛寶に付被害當時の狀況を取調べしに曖昧の點ありて少々怪しと認めたるより早速朝鮮銀行に付取調べしに六百圓は積立てあり全く虛僞の申告を爲し何物にかせん目的なりし事判明し目下引續き取調中なり

●爭論の末毆打致死

▽車賃の多少から

銅峴分署管內南部大坪坊張洞二十六統九戸人力車夫張浴用（四八）が十一日午後八時頃南部典橋南側街路に於て何者にか殺害せられし旨銅峴分署に屆出たるより警官は警察醫と共に現場に檢視し一方非常線を張り犯人捜査に着手し十二日午前十時頃該犯人は南部大坪坊典橋二十四統八戸人力車夫禹顯基（二四）なる事判明し直ちに逮捕取調の結果車賃の事より爭論の末毆打し死に至らしめし事判明し尙ほ死因不明なるより十三日總督府醫院に於て解剖したりと

●昨今の魚類と相場（日の丸市場）

昨今京城人士の食膳に上る魚類は何處から來るか群山木浦仁川近海には漁船の影も無く釜山馬山統營等の近海に於て漁獲があるばかり種類は鯔鰆鯛鱈海鼠鮑ヒラメ等で鰤は一貫目一圓四五十錢鰆が二圓四五十錢鯛が一圓五六十錢で相場は品の多寡に依つて高低がある外に內地よりは鮪鰯等がチョイ〜來る位で眞に寂しいものです

●眼開按摩の詐欺

原籍山口縣熊毛郡上ノ關村字八島當時仁川宮町二丁目荒木喜代太郎方村田達（三九）と云ふ眼明き按摩は遊蕩費に窮し敷島遊廓一進樓に遊興中十一日午後六時頃樓主をして支那町住福田仙吉名儀の書面を認めしめ樓婢をして松尾呉服店より御召縮緬代金二十圓を詐欺せしめたる事發覺し同樓より拘引せられしが餘罪をも自白したれば目下嚴重取調中なるが一進樓主も共に嚴重取調中なり

●一萬圓詐欺事件

岡山縣人當時京城古市町一丁目十三番戸井上保（三四）は昨年十一月崔淳亭所有の宅地及家屋を買受けたるに付同宅地及家屋を典當契約に爲す可しと稱し實業株式會社より金一萬圓を詐欺したりとて告訴され目下南部署に於て取調中

●龍山署の開廳式

過日舊龍山元町三丁目新築廳舍へ移轉したる龍山警察署は來十九日官民を招待して盛大なる開廳式を擧行する由にて今より準備中也

●日曜集會

▲メソヂスト教會（旭町二）午前十時日曜學校同十一時禮拜後藤岡牧師の說教『信徒の警戒』午後七時半同牧師の『感謝の生涯』▲京城日本基督教會（旭町四）午前九時半日曜學校同十時半禮拜井口牧師の『惡き醉狂』午後七時半より同師の『傳道の動機』と題する說教あり▲微笑會　例に依て午前十時より圓山太嶺師の碧巖錄提唱ありと

●演藝だより

▲歌舞伎座　改成義團十四日の出し物は『不孝の天罰』なり▲壽座　若島屋一座十四日の替り狂言は『義民佐倉宗五郎』と据る▲浪花舘　三遊亭圓若一座で大入り

平民文庫

▲近頃當欄の問題になつた髮結のお靜さんは極めて調法な女で賴みさへすると娘でも奥さんでも藝妓でも旦那でも秘密に周旋する▲調法は調法だが秘密だから危險だとサ▲話は違うが昔から女髮結と云ふものは良家では斷る危險がられた者だ相だ▲例之『彼の家も駄目だねアノ女が出入る樣ぢや』と斯うであつたとサ▲お靜さんの發起した浪花館の藝妓總見席には紳士、夫人等も見受けた（清濁併呑）▲節子寺建立に倭城臺赤煉瓦の殿も御關係と聞きて『○○○が犬と寐て居るふりをして何時の間にやら猫と寐て居る』（秋汀）▲鐘路の某役所にオダマンと云ふ奴があつて盛んに同僚や書記を仲傷するとの投書は沒（辯護士）▲龍山桃山町の支配人上塚とか云ふ人は借家の事は更にお構ひなしだ（實見生）▲桃山の門前に松とか竹とか云ふ飲食店あり其家には淫賣婦も居るよ其筋にては知らざるか（素見生）